

おわりに

「せやハンドブック」をお読みいただき、ありがとうございました。

今年度のテーマを「自立に向けた学習活動の共有化」とし、本校の学校目標の大きな柱である児童生徒の「自立と社会参加」の実現に向け、昨年の研究の成果と課題を踏まえながら組織的な授業改善等を通じ、どのような指導支援を行えば学習効果が上がるのか、学部を超え、課題を共有しながら丁寧に研究を進めてまいりました。その成果と課題を1冊の実践授業事例集としてまとめました。いかがだったでしょうか。

昨今の急速なグローバル化、情報化や技術革新による社会の変化に伴い、子どもたちの教育の在り方が新たな局面を迎えています。それを踏まえ、平成28年12月の中央教育審議会の答申の中では、新学習指導要領等改訂の基本的な方向性が打ち出され「何ができるようになるのか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」についてより明確化されました。高校における「どのように学ぶか」については、生徒が主体となり、学ぶことへの興味関心を持ちながら他者との協働や外界との相互作用等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」や、自己のキャリア形成の方向性を関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」いわゆる“アクティブ・ラーニング”の視点にたった研究が日々進められています。

特別支援学校においてもまったく同様であり、新しい社会の在り方を自ら創造することができる資質・能力を育むために、習得・活用・探求といった学びの過程全体を通して、子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業研究・改善が大きなテーマとなっています。本校においても一人ひとりの教育的ニーズに応じ、児童生徒がより主体となった授業を実践するために、日ごろ、最前線に立ち子どもたちと向き合う教員が丸となり、自立に向けた学習活動の共有化を図りながら「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、組織的な実態把握（アセスメント）と授業研究・改善を進めています。学習に対し「受身」から「能動的」（アクティブ）になって取り組むことによって得た知識や技能を活用することによって、未知の状況にも対応できる思考力や判断力、課題解決能力等が育まれることが大きく期待されます。そのような観点からも「主体的な学び」の実現は、大変重要であると考えています。

私たちは、今回の研究を通じ「自立に向けた学習活動を共有する」ことで、子どもたちのそれぞれの段階に応じた効果的な授業実践法等について、一定の成果を得ることができました。それと同時に、今後本校がめざすべき教育の在り方について課題を共有することもできました。今後も「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、絶え間なく研究を続け、子どもの「自立と社会参加」をめざすと共に、すべての子どもが同じ場所で共に学び、共に育つ共生社会の実現に向け、取り組んでまいりたいと思います。

最後になりましたが、本研究にあたりまして、温かい御指導や御助言をいただきました渡邊昭宏先生、総合教育センター教育相談部特別支援教育推進課の斉藤佳子指導主事をはじめとするすべての関係者の皆さまに、心より厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

平成30年1月

副校長 石倉隆之